

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

忠誠心と帰属意識の強さで再び成長する 井上 礼之 (ダイキン工業会長)

1. 高級品が求められ、1つの製品を長く使う傾向にある日本市場とは反対に世界の市場では、珍しいものが安価で売られ、店頭には並ぶ製品のラインアップがどんどん変わっていく。今、こうした世界市場の標準を作っているのが中国とインドだ。企業が短いスパンで新製品を出す「多産多死」の製品開発が特徴的だ。「多産多死」の製品開発をすると、未完成のものをあえて市場に投入することもある。スピード感ある開発を進めるには、技術を解放するオープンイノベーションも必要だ。
2. しかし、米国の学者が「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という本を出したように、日本が高く評価された高度経済成長時代の成功体験が忘れられない日本企業は多い。かつての完璧主義のこだわりを捨て切れず、新しい手法をなかなか取り入れられずにいるのだ。日本企業が競争力を失った背景の一つにこうした要因があるのではないか。
3. 1つの土地を耕して長く住み続ける農耕民族型とされる日本人は、新しい製品を生み出したり、新たな手法を取り入れたりする非連続に弱い。今、日本企業に求められるのは、勇気をもって新しい分野に果敢に挑むアニマルスピリットを発揮することだ。忠誠心や帰属意識が強いという海外にはない日本企業の素晴らしさもある。こうした強みを生かせれば、日本企業は再び成長できるはずだ。

(参考:「日経ビジネス」2019年10月7日号)

人事・労務について

増加する「先行実施」型の早期退職

1. キリンビールが45歳以上の管理職の社員を対象に早期退職の募集を実施する。2018年度決算で過去最高益をたたき出したにもかかわらず、人員整理を行う。近年、日本企業で増加しているバブル入社組をターゲットにする「先行実施」型の早期退職である。2019年上期(1~6月)に希望・早期退職者を募集した上場企業は、開示している企業で17社に達し、2018年(1~12月)の12社をすでに上回っている。
2. 先行実施型の希望・早期退職が増えた背景には二つの理由がある。一つ目は、「バブル世代の退出と若手への投資」である。もう一つの理由は、政府の社会保障制度改革の本格化をにらんだ「企業の防衛」である。世の流れは、定年延長と高齢者の再雇用を企業に迫る「強制高齢者雇用」である。そのため、企業側には、高齢者に至る一歩手前の「バブル世代」の余剰をなくすためだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2019年10月12日号)

経営者のため危機管理

物流業界の人手不足問題

黒川久幸 (東京海洋大学理事)

1. 日本の物流業界の人手不足、とくにトラックドライバー不足は深刻である。これは、1990年に制定された物流2法による規制緩和の影響が大きいといわれています。競争の促進で企業規模を拡大させる狙いがあったのですが、貨物自動車運送事業者数は20年で4万社から6.3万社に急増し、増加の約8割が保有車両数10両以下の零細事業者です。
2. 規制緩和後、価格競争が激化し、運賃・料金が低下する一方、環境対策などで車両価格や燃料費が上昇し、事業者の利益率が下がっています。その結果、人件費にシワ寄せがいき、トラックドライバーの給与が低く抑えられています。長時間労働が常態化していることが多く、若年の確保がままならず、ドライバーの高齢化が進んでいます。労働条件を改善しなければ、人出不足は解消されないでしょう。

(参考:「週刊東洋経済」2019年10月5日号)

古典に学ぶ

今日の実業家の状況

(解説)今日のいわゆる実業家の多くは、自分さえ儲ければ他人や世間はどうあろうと構わないという腹で、もし社会的及び法律的の制裁が絶無としたならば、強奪すら仕兼ねぬという情ない状態に陥っている。もし永らくこの状態を押して行くとすれば、将来貧富の差はますます甚だしくなり、社会はいよいよあさましい結果に立ち至る事と予想しなければならぬ。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)